

## 農 林 水 産 物 の 生 産 等 概 況

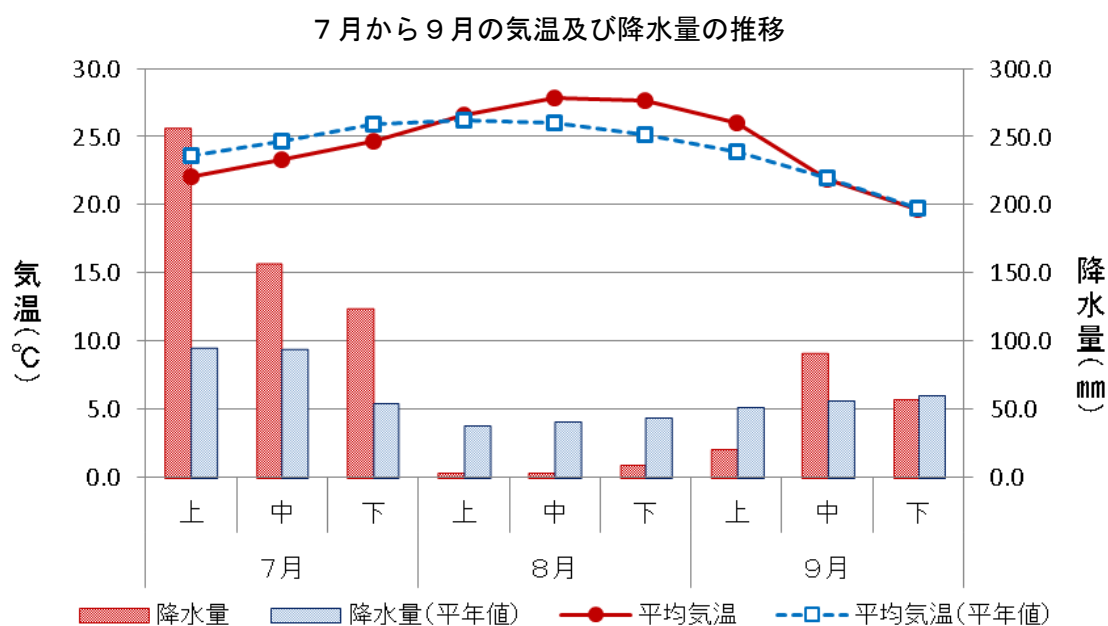
〔 令和2年10月19日  
農業経営発展課 〕

## I 気象概況

7月は、降水量が平年の2倍以上と大幅に増加し、気温は平年より低く推移した。

8月に入り、気温が上昇し、9月上旬まで平年より約2℃高く推移した。降水量は平年の9%～41%と大幅に減少した。

9月中旬以降は、平年並みの気温に戻り、降水量も大幅な増減はなかった。



※県内17気象観測地点の平均（気象庁の観測データを参照）

## II 農産物

## 1 普通作物の生産状況

## (1) 水稲

《主食用米》

9月18日現在、県内の主食用米作付面積は22,000haと昨年より200haの減少、非主食用米作付面積は1,400haと昨年並みが見込まれる。

作柄は、全体のもみ数は平年並であったが、登熟（実入り）は、7月中旬から下旬にかけての日照不足とトビイロウンカの被害により、やや不良の見込みである。

このことから、9月15日現在の作況指数は、97（北部97・南部97）となっている。

作付面積は減少し、作況指数も低くなっているが、全国の民間在庫量が増加していることなどから、今年産の米の取引価格は下落している。

《酒造好適米（酒米）》

酒米は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う日本酒の消費量の減少により、一部の酒米の販売先が確保されていないことから、来年以降の生産面積が縮小する恐れがある。

(2) 大豆

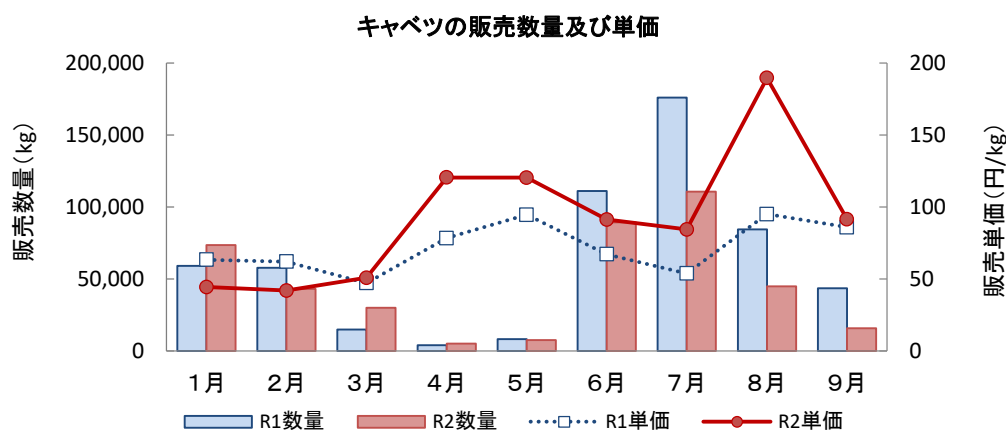
生育は、7月の長雨による播種遅れの影響から、一部地域で平年より草丈が低く、着莢数が少ない。

2 野菜の生産・販売状況

(1) キャベツ

県北部の庄原市や北広島町を中心に生産されたものが販売されている。

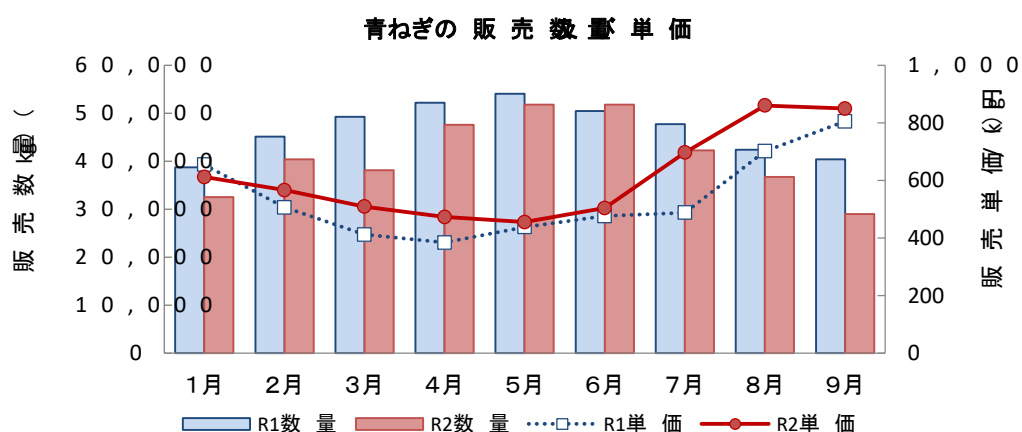
7月の長雨、8月の高温の影響で販売数量が前年よりも減少したことから、単価は高値傾向で推移している。



(2) 青ねぎ

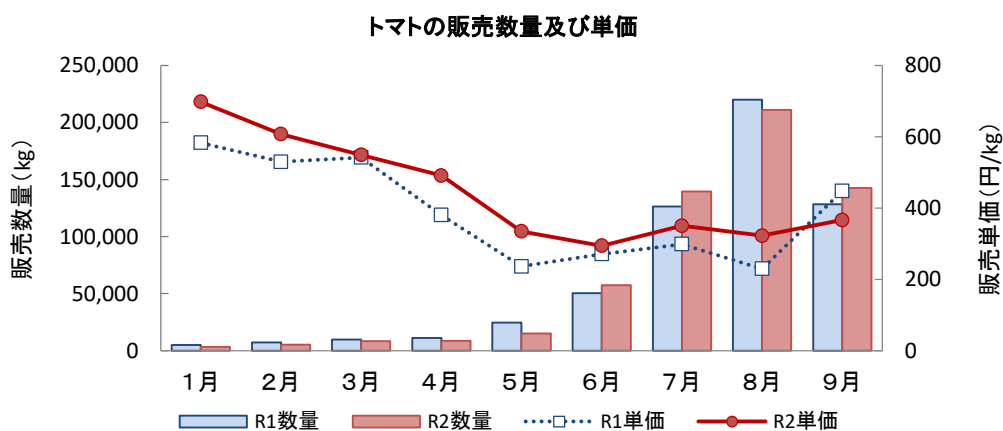
安芸高田市を中心に生産されたものが販売されている。

7月の長雨や8月の高温の影響で病気が発生し、販売数量が前年よりも減少したことから、単価は高値傾向で推移している。



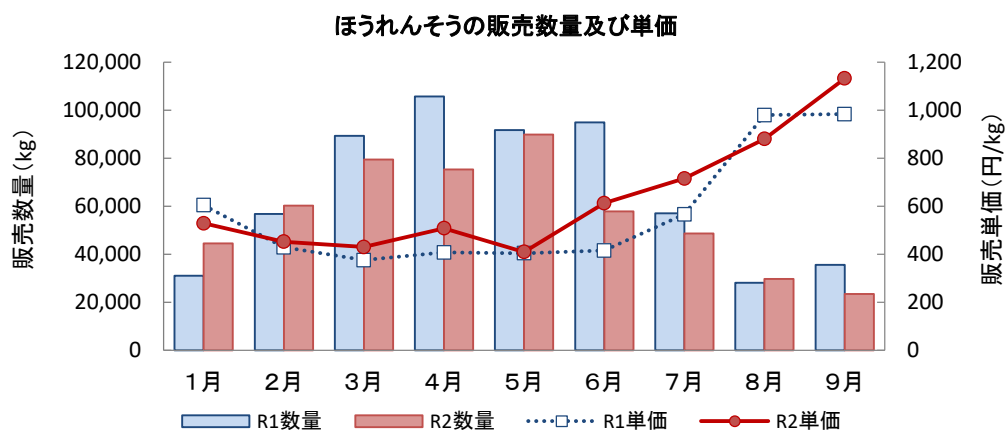
(3) トマト

神石高原町や庄原市など県北部を中心に生産されたものが販売されている。  
生育は順調で、7月から9月の販売数量、単価は概ね前年並みで推移している。



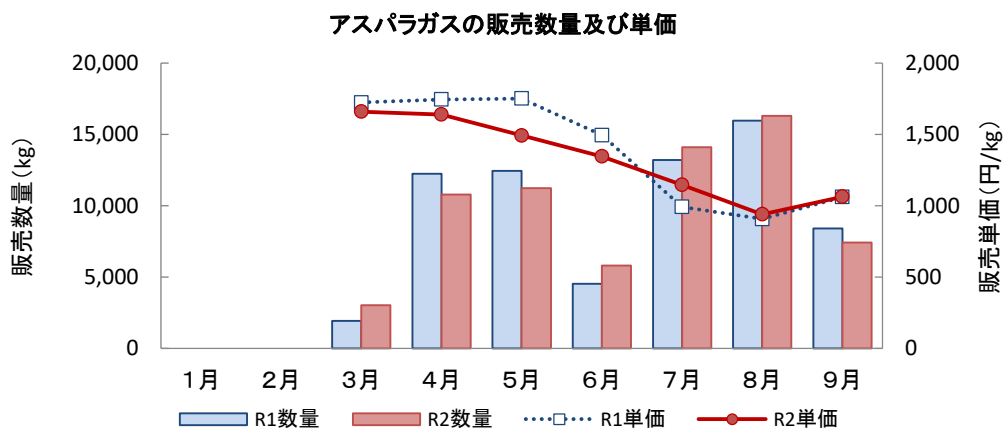
(4) ほうれんそう

庄原市や北広島町を中心に生産されたものが販売され、7月から9月の販売数量、単価は概ね前年並みで推移している。



(5) アスパラガス

三次市や世羅町を中心に生産されたものが販売されている。  
生育は順調で、7月から9月の販売数量、単価は概ね前年並みで推移している。



### 3 果樹の生産・販売状況

#### (1) うんしゅうみかん

生産量は、裏年であることから前年から減少し、うんしゅうみかん全体で10,826 tと見込んでいる。普通うんしゅうでは、果実の肥大は平年より大きく、糖度は平年より高く、酸度は平年並からやや低いことを見込んでいる。

本県産の出荷は10月5日から開始されており、全国的にはやや高い単価となっている。

#### (2) レモン

露地栽培のレモンは10月5日から販売が開始され、前年とほぼ同じ単価で取り引きされている。今年産の生産量については、栽培面積は拡大しているが、7月の日照不足により、生理落果が多かったことから、JA広島果実連は、前年から減少の5,700tと見込んでいる。

#### (3) なし

幸水は7月の日照不足により、小玉傾向となり、豊水は開花期の低温により、着果不良となったことから、幸水、豊水ともに生産量は前年よりも減少を見込んでいる。

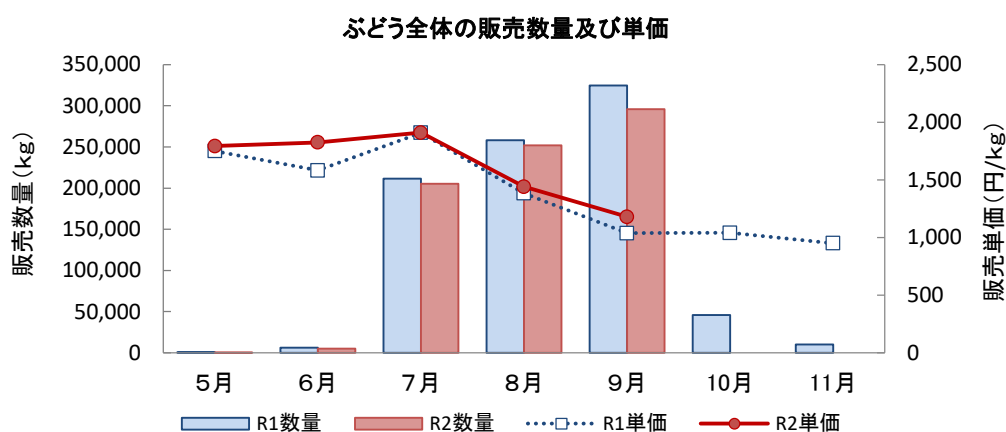
全国的に不作で、生産量が減少していることから、高い単価での販売となっている。

なしの販売状況 (令和2年9月)

品名	販売数量		販売単価	
	kg	前年同月比 (%)	円/kg	前年同月比 (%)
幸水	90,010	99	435	135
豊水	163,878	73	461	139

#### (4) ぶどう

7月の日照不足により、小房傾向となり、生産量は前年より減少を見込んでいる。気象災害の影響で九州等からの入荷が少なく、本県産については、昨年に続き、やや高い単価での販売となっている。



#### (5) いちじく

高温、干ばつにより、過熟傾向となり、生産量は前年より減少を見込んでいる。入荷量が減っていることから、やや高い単価での販売となっている。

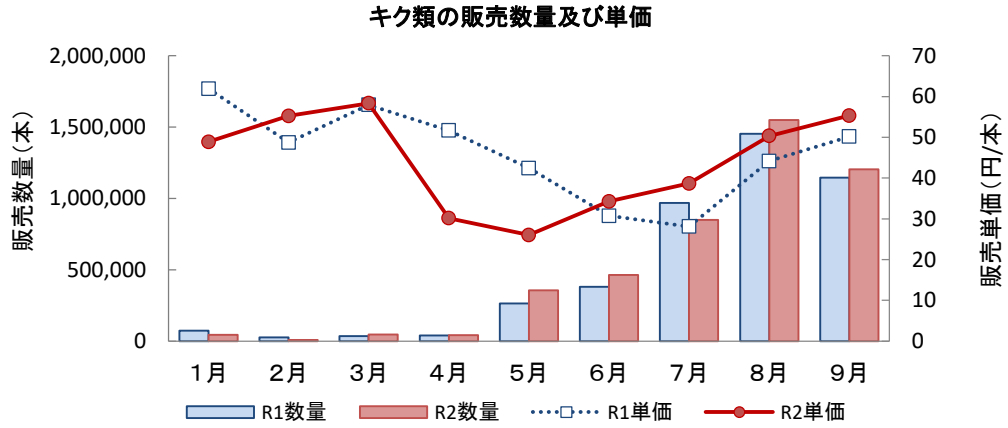
#### (6) りんご

生育は順調で、生産量は前年より増加を見込んでいる。販売も順調である。

#### 4 花きの生産・販売状況

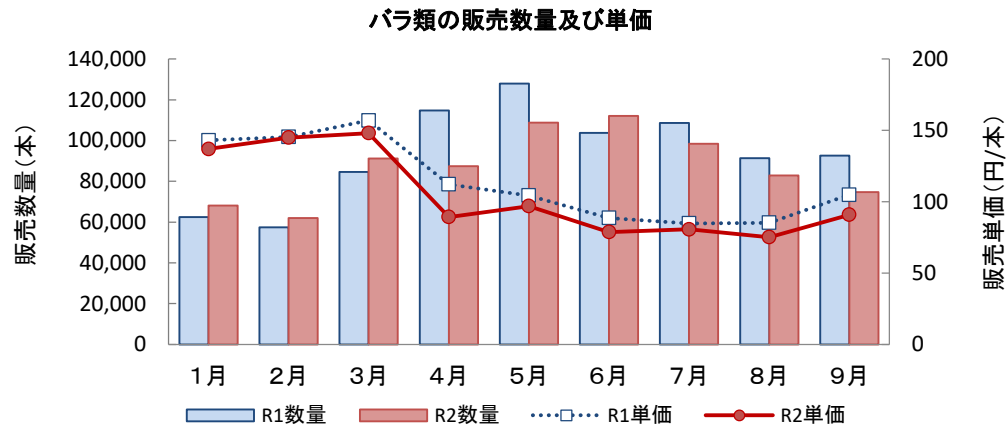
##### (1) きく

夏の高温により、葉が傷むなど、品質への影響が見られたが、花き全体の出荷量が減っている状況から、やや高い単価での販売となっている。



##### (2) バラ

出荷量が減っている状況であるが、夏の高温により、花丈が短くなるなど、品質への影響が見られたため、やや低い単価での販売となっている。

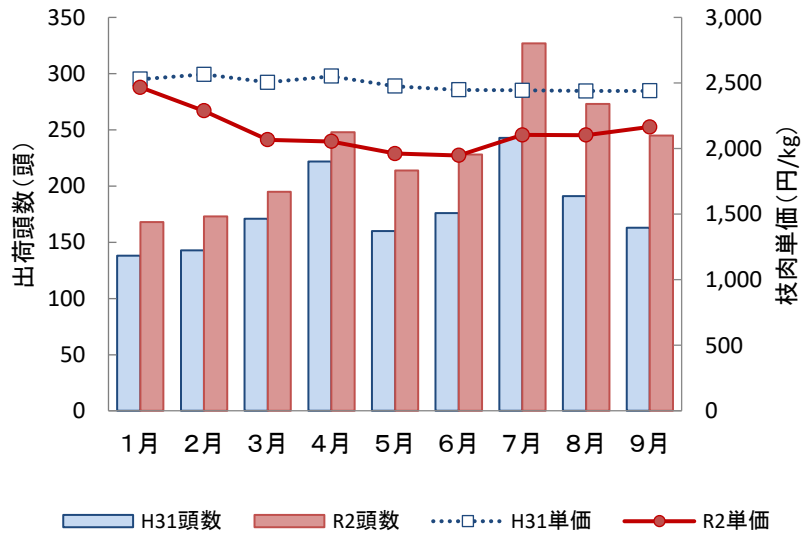


### Ⅲ 畜産物

#### 1 和牛

和牛の飼養頭数が増加傾向にあることから、出荷頭数は前年よりも1～3割増加して推移している上、外食向けの需要低下により、9月の枝肉単価は対前年同月比で11%低下しており、2月以降継続して前年を下回っている。

和牛の出荷頭数及び単価

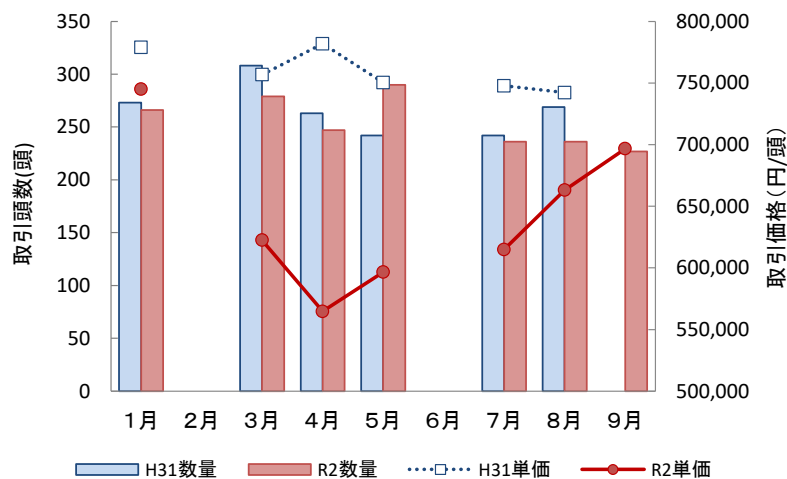


※ 「食肉流通統計」(農林水産省)。直近月は、「食肉市況速報」( (公社) 日本食肉市場卸売協会) から引用。  
 出荷頭数は全ての和牛(成牛)、枝肉単価は和牛去勢A4で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

#### 2 和牛子牛

子牛取引価格は、3月以降、昨年同月を下回って推移しており、4月はその差が最大となり、対前年同月比▲15万円(▲28%)となったものの、9月まで徐々に回復基調となっている。

和牛子牛の取引頭数と価格

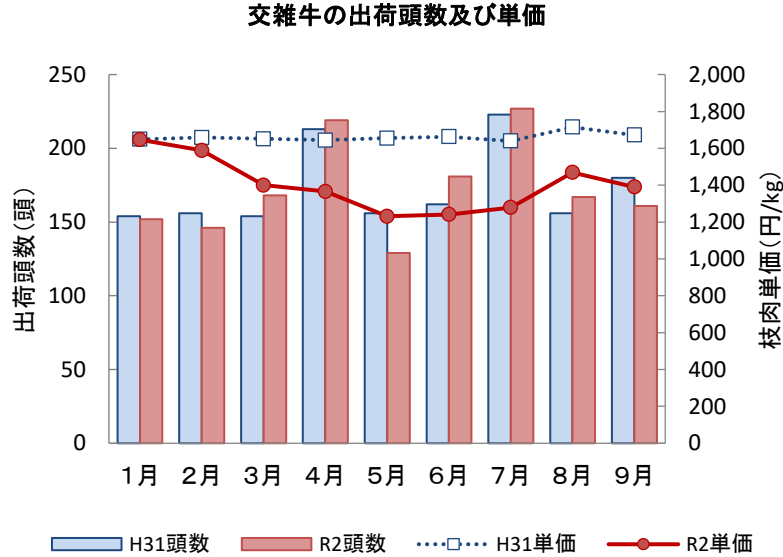


※ 「肉用子牛取引情報(独立行政法人農畜産業振興機構)」  
 9月のデータは速報値で全国農業協同組合連合会広島県本部

### 3 交雑牛

出荷頭数は、前年と大きな変動はないが、外食向けの需要が減り、量販店向けへの転換など物流の変化が生じた。

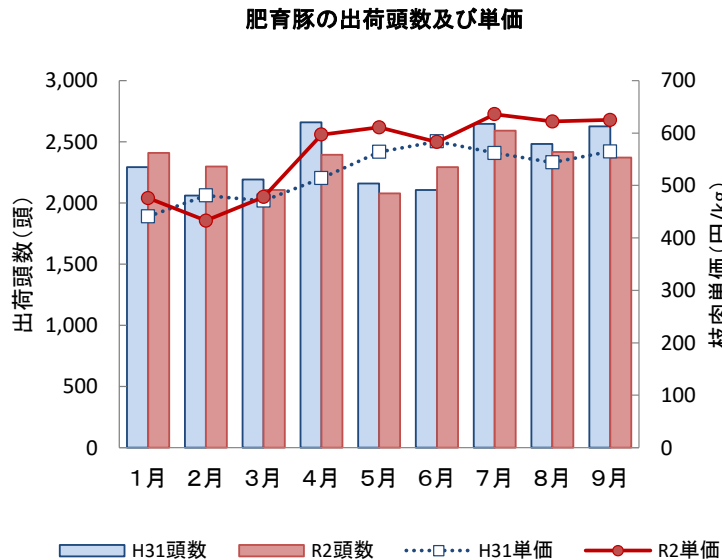
枝肉単価は、3月以降、対前年同月比で1割から2割安で推移している。（9月▲17%）



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。  
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

### 4 豚

4月から9月までの枝肉単価は量販店での需要が強く、前年同月比以上で推移している。（9月+11%）



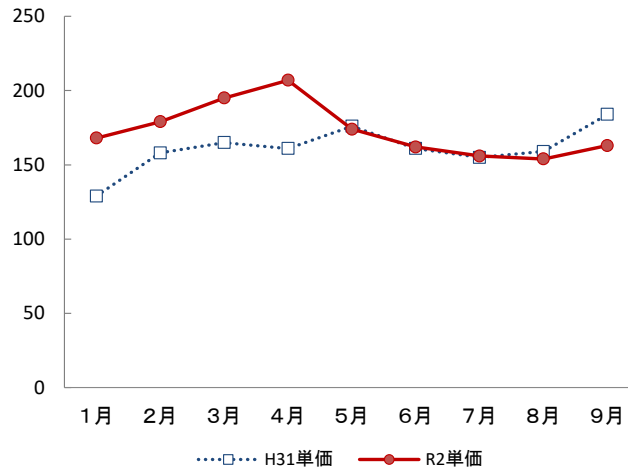
※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産

## 5 鶏卵

外出自粛による家庭での消費増加の影響で、量販店での需要が伸び、4月の取引単価は対前年同月比で29%上昇した。

5月以降の取引単価は前年並みで推移しており堅調であったが、9月は11%低下した。

鶏卵(全農ひろしまM)単価

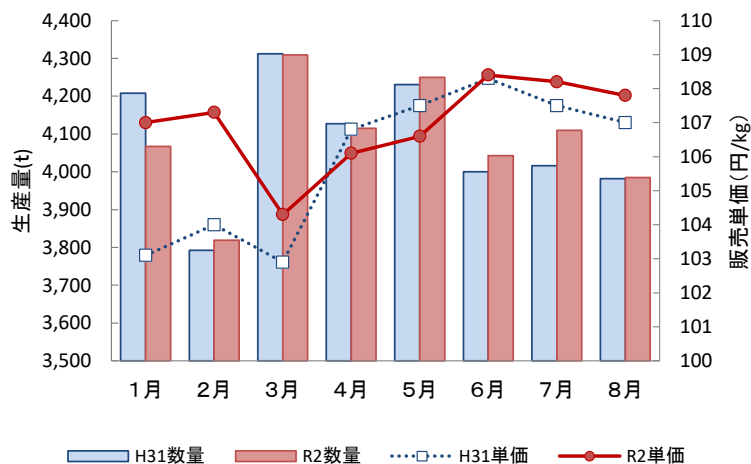


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」

## 6 酪農

3月は給食の中止に伴い、学校給食用牛乳からバター等加工向けに一部転換され、乳価が前月比で3%低下した。4月から5月は学校給食が再度休止されたが、その後、加工向けが減少し、休校の影響が出る前の2月並みの乳価に回復し、現在(8月)の乳価は、前年同月並みとなった。

生乳の生産量及び単価



※生産量は、「牛乳乳製品統計(農林水産省)」, 乳価は「広島県酪農業協同組合」



## IV 林産物

### 1 木材価格

#### (1) 素材価格

9月は8月に比べ、スギ中丸太は横ばい、ヒノキ中丸太は8%高、米マツ丸太は横ばいとなった。

また、前年9月に比べ、スギ中丸太は12%安、ヒノキ中丸太は13%安、米マツ丸太は4%安となった。

#### (2) 製品価格

9月は8月に比べ、スギ正角、ヒノキ正角ともに横ばいとなった。

前年9月に比べ、スギ正角、ヒノキ正角ともに横ばいとなった。

(単位：円/m<sup>3</sup>)

年	素材価格			製品価格	
	スギ 中丸太	ヒノキ 中丸太	米マツ 丸太	スギ 正角	ヒノキ 正角
平成29年	12,542	14,292	26,101	55,667	63,500
平成30年	12,750	16,208	30,210	56,000	65,000
令和元年	13,000	16,917	28,523	56,000	65,000
令和元年9月	12,500	16,000	28,440	56,000	65,000
令和2年8月	11,000	13,000	27,360	56,000	65,000
令和2年9月	11,000	14,000	27,360	56,000	65,000

(注) 素材価格及び製品価格は日刊木材新聞「広島標準相場」

素材価格：国産材は市売値，外材は問屋における店頭渡し価格

製品価格：小売業者への店頭渡し価格

平成29年～令和元年は年間平均価格

### 2 木材取扱量

県内の木材市場のうち、最も取扱量が多い広島県森林組合連合会三次木材共販所における7月から9月の月間取扱量は、前年度の同月と比べて、それぞれ、11%、18%、15%減少している。

広島県森林組合連合会三次木材共販所における取扱量 (単位：m<sup>3</sup>)

年	樹種	木材取扱量	内訳	
			スギ	ヒノキ
令和元年7月		6,199	1,758	4,441
令和元年8月		5,875	1,977	3,898
令和元年9月		7,249	2,538	4,711
令和2年7月		5,515	2,998	2,517
令和2年8月		4,819	2,070	2,749
令和2年9月		6,179	1,957	4,222

## V 水産物

### 1 水温

10月上旬の県内海域の表層の水温は24.0～25.6℃で、平年差は-0.7～+0.9℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
10月上旬の水温	24.0～24.9℃	24.6～25.1℃	25.1～25.6℃
平年差	-0.7～+0.7℃	+0.4～+0.6℃	-0.1～+0.9℃

### 2 漁獲状況

市場全体の入荷量については、マダイ、キジハタ等が平年以上となっている。

県内産の入荷量については、マダイ、キジハタ等が平年以上となったが、カタクチイワシ、タチウオ等は平年を下回っている。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（8月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	49.4	93	114	715	84	77	14.9	121	146	517	75	72
クロダイ	5.6	119	78	364	92	87	5.5	122	81	365	91	86
カタクチイワシ	29.1	110	72	287	75	85	0.009	0	0	540	141	164
スズキ	8.5	108	56	909	63	80	3.5	340	94	443	54	49
アナゴ	27.1	81	82	1,530	90	84	1.0	110	56	1,986	147	121
タチウオ	12.5	91	46	1,224	101	110	0.4	16	3	2,526	270	268
メバル	6.9	123	84	1,467	91	89	1.5	114	36	1,367	87	87
カサゴ	1.3	113	68	778	86	80	1.0	138	88	716	97	78
オコゼ	1.2	69	65	1,922	91	77	0.7	110	96	1,863	88	78
キジハタ	2.4	89	121	1,755	80	65	1.8	92	177	1,640	81	62
ヒラメ	5.8	79	55	2,162	98	118	0.4	116	22	2,782	100	143
カワハギ	8.2	48	36	782	156	169	0.7	160	64	1,241	100	108
ガザミ	1.9	54	60	2,555	161	179	0.4	18	32	1,773	119	120
タコ	40.9	138	90	872	76	80	14.7	83	82	867	75	77

平年値は平成22年～令和元年の平均

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、9月末現在、平均単価は平年を下回っているが、共販数量は多く、金額も平年を上回っている。

広島県煮干共販出荷実績（9月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和2年度(平年比)	1,219 (157%)	871,473 (135%)	715 (86%)
平 年	778	646,322	830

平年値は平成22年～令和元年の平均（9月末累計）

### 3 養殖状況

#### (1) かき養殖

かきの出荷は、かきの身入状況を踏まえ、平年並みの10月1日から開始された。

#### (2) のり養殖

平年並みの10月3日から採苗が行われている。「乾のり」としての出荷は、12月下旬を見込んでいる。